

看護提供方式の変更 ～セル看護提供方式[®]導入～について

1 看護提供方式とは

看護を取り巻く環境変化の中で、質の高い看護を効率よく提供するために開発された方式で、看護単位における構成員の役割分担の仕方である。

主に6種類あり、病院・看護科理念、患者数や特性、看護職員数や能力などにより選択されることが多い。

どの方式を採用するかによって、看護師のモチベーションにも影響を与えるとされている。

2 現在の看護提供方式

2001年より、固定チーム継続受け持ち制を採用している。

これは、リーダーとメンバーが一定期間チームを編成し、チームの年間目標に向かって看護を展開。

一人の患者を受け持つ看護師がおり、チームがその看護を支援するという方式である。

3 看護の課題

高齢患者、認知症患者の増加に伴い、求められる看護の内容が変化している。

転倒転落事故予防のために、起き上がりや離床したことがわかるセンサーベッドを多くの患者が使用しており、その対応の中で患者が自分らしく安心して入院生活をおくることが時として満たされず、看護師も本来の看護を見失い疲弊している傾向にある。

4 セル看護提供方式[®]

看護師の動線に着目し、そのムダを省き「患者のそばで仕事をする＝患者に関心を寄せる」を実現する方式。看護師の拠点を、従来のナースステーションではなく、病室や病室周辺とするものである。

5 セル看護提供方式[®]のメリット（患者のそばに看護師・介護士がいることのメリット）

- (1) 症状の変化にいち早く気づき、早期の看護・介護介入につながる
- (2) ナースコールを押さなくても患者、スタッフ間の意思疎通ができる
- (3) 患者は、入院生活において身体的・精神的拘束感が減る
- (4) 看護師は患者を常に見守り、必要な看護を判断し、提供することに専念でき、やりがいを感じる

- (5) 動線のムダ、業務のムダを省くことで業務効率化が図られ、時間外業務が減る
- (6) ベッドサイドでの回診、多職種カンファレンスが可能になる

6 導入目的

当院の経営理念、看護科理念の実現に向け、セル看護導入を院内意思決定した。

これにより、看護師の多忙さに影響されず、患者様が安心して入院生活を送ることによる患者利益の最大化を目指すとともに、看護師らが本来あるべき看護を取り戻し、やりがいを感じながら、元気に笑顔で働く環境を整えていく。

今後、芽室町でもさらに増加する高齢者・認知症患者、労働者不足を見据え、これに備えるものとなる。

7 導入スケジュール

昨年12月、すでに導入している砂川市立病院を視察。

三上副総看護師長をリーダーとした看護主査2名を含む5名のプロジェクトチームを発足させた。

本年、1月10日、総看護師長から看護科職員全員にセル看護導入の目的等を説明。

今後は毎月会議を開催し、令和7年度からの本格運用を目指す。

まずは業務上の課題抽出、業務マニュアル作成などをし、ベッドサイドで記録をするなど、随時、病棟ごとにできることから始めていく予定。

8 導入に必要な物品

(1) すでに用意している備品

ア ノートパソコン (既存品)

イ 看護師用カートと椅子

(2) 今後、用意したい備品

ア 病室内用の簡易式備品収納ケース (当面、床頭台でも可能と考えている)